



## ご挨拶 ～この1年を振り返って～

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第16期は当社グループにとって、大きな成長に向けた足掛かりとなる1年となりました。

2017年4月には、CPN-101（旧コードMRX-4TZT）について、インドの老舗グローバル製薬会社 Cipla Ltd.グループと世界的な開発・販売ライセンス契約（ただし、東アジアを除く）を締結し、契約一時金を売上高として計上することができました。

2017年10月には、当社が最も大きく期待を寄せているMRX-1OXTを臨床試験のステージに進め、2018年2月に、疼痛治療に十分な血中薬物濃度を実現できる可能性が高いことを示す第I相臨床試験結果を得ました。疼痛治療に十分な量のオキシコドンを経皮吸収させることができる可能性をヒト（臨床試験）において示したのは、おそらく世界初の画期的なブレイクスルーであり、MRX-1OXTの今後の展望に大きな手ごたえを感じているところです。オピオイド鎮痛剤の乱用が社会問題化している米国において、一日も早く、より安全で安定した疼痛管理をもたらす薬剤を提供することができるよう開発を進めていくとともに、早期の事業提携も視野に入れてライセンス活動に取り組んでまいります。

また、2018年2月末には、ILTS<sup>®</sup>と並ぶ当社の基幹技術NCTS<sup>®</sup>を用いた或る開発候補品について、第一三共株式会社との間で共同開発契約を締結しました。製造販売承認取得を目指して、第一三共と共同で開発を進めてまいります。日本を代表する製薬会社の一つである第一三共からNCTS<sup>®</sup>技術が評価されたことに、当社のイノベティブな技術力への自信を深めております。

2018年は、開示しております5つのパイプラインの他、ILTS<sup>®</sup>、NCTS<sup>®</sup>、マイクロニードルアレイそれぞれの当社独自技術を用いたテーマについて、より一層積極的に研究開発を進めるため、これまでより多少研究開発費が多くなることを見込んでおりますが、一步一步開発を進めていくことが当社企業価値を最大化するための唯一の道筋と考えています。医薬品の開発にはリスクが付きものですが、今後も開発パイプライン群のポートフォリオ構成に留意しつつ、早期の製品化に向けて積極的に開発を進めるとともに、製薬会社等との事業提携を模索してまいりたいと思います。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年3月12日

代表取締役社長

松村米浩